

観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

福島 一人

Tourism English (15) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites in Kyoto Prefecture, and in Kumamoto Prefecture, such as the *Kousan-ji* [-temple], the *Tenryuu-ji*, the *Daigo-ji*, the *Uji Byoudou-in* [-temple], and the *Misumi-nishikou* (-west port)

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

This paper, as a case study, examines the English found on signs in popular tourist sites, such as the *Kousan-ji* [-temple], the *Tenryuu-ji*, the *Daigo-ji*, and the *Uji Byoudou-in* [-temple] in Kyoto Prefecture, and the *Misumi-nishikou* (-west port) in Kumamoto Prefecture. All are now inscribed on the World Heritage List by UNESCO.

The signs discussed here are again those which indicate the general summarized information about these sites. If there are no such signs or if descriptions on such signs are thought to be inadequate, the writer's suggestions will be added.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7) and (2017.1).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)}充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるであろう。

事例報告として、本稿では、当該観光名所の「包括的説明」を行う「総合案内板」の英語について考察する。まず、日本語説明について検討を加え、英語説明について考察する。現地のもので不十分と思われる場合、加筆・修正を行い、存在しない場合、全体の提案を行う。特定部分の説明が多すぎると思える場合、削除することを提案する。

世界文化遺産登録されている、京都市の「高山寺」、「天龍寺」、「醍醐寺」、宇治市の「平等院」の「総合案内板」について検討を加える。また、世界産業遺産に登録されている、熊本県宇城市の「三角西港（みすみにしこう）」のものについて、現在設置されている案内板を参考に、「三角西港」

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

という表題の「総合案内板」を提案する。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、福島 (2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、そして (2018.7) で挙げた提案に従う。

本稿中で、本稿執筆者の提案部分は太字で記す。原文中のアンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。

2. 「高山寺」、「天龍寺」、「醍醐寺」、「平等院」、「三角西港」の案内板

前4者は、これまで挙げてきた「古都京都の世界遺産」の案内板の書式と一致し、「世界遺産登録」、「包括的説明」に相当する「本文」、そして「登録年月日」の順に、日本語、英語で表記されていた。しかし、「三角西港」のものは、福島 (2018.7) の萩市のものと共通し、「世界産業遺産登録」についての記述しか存在しなかった。

京都府の案内板については、これまで執筆者が提案してきたものと同様、本稿でも、「本文」すなわち「包括的説明」を行う箇所について加筆、修正を行う。「三角西港」には、「世界遺産 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」、「昔の三角西港」という表題の案内板が存在する。本稿では、「歴史的説明」、「現在の建造物」などを包括的に説明する「三角西港」という表題の案内板を提案する。尚、本稿で使用している画像は、2018年3月以後に執筆者自身が撮影したものである。

2. 1 高山寺

1



2



高山寺は、京都市の北西部、京都駅からJRバスの「梅ノ尾（とがのお）」行きに乗り、「梅ノ尾駅」で下車する。所要時間約55分である。

特に、紅葉の季節に人気がある。画像1の国宝「石水院」、画像2の重要文化財「金堂」と「開山堂」などが建造物では有名である。また、国宝の『鳥獣人物戯画（鳥獣戯画）』を含む多くの典籍を中心とした寺宝を所蔵する。

画像3は「世界遺産登録」についての案内板である。

「本文」の日本語説明は、以下の通りである。福島 (2017.1) に準じ、「高山寺」の文字サイズ

3



を大きくし、太字にすること、読み難い漢字の横に(振り仮名)を入れることを提案する。「石水院」の説明が多く、他の有名な建造物や所蔵物が記されていないことが問題に思える。日本語説明文中のアンダーライン部を削除することを提案する。

「金堂」、「開山堂」、「鳥獣人物戯画」、「茶園」の記述を加筆する。「石水院」の詳細は、「石水院」という独立した案内板にまかせるべきであろう。また、「このほか境内奥寄りには…」という二つの塔の記述は、あまり観光客に興味があるとは思えないので削除する。加筆・修正部分は赤字で記す。

高山寺(こうさんじ)^{註2)}は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

高山寺は、宝亀5年(774)に開創された寺を、13世紀初頭に明恵(みょうえ)上人が中興して高山寺と改称したことに始まります。中興当初は金堂(こんどう)、阿弥陀堂(あみだどう)、十三重塔(じゅうさんじゅうのとう)、東西経蔵(とうざいきょうぞう)などが建ち並んでいましたが、その後中世の戦乱期に荒廃し、江戸時代にはいつて寛永11年(1634)に再興されました。

境内には、「石水院(せきすいいん)」、(国宝)、「金堂」(重要文化財)、「開山堂(かいさんどう)」(重要文化財)など有名な建造物があります。

「石水院」は、明恵上人時代の唯一の遺構で、13世紀前半に建てられた住宅風の建築です。鎌倉時代の雰囲気を漂わせています。庇を縫破風(すがるはふ)で処理する手法や細部意匠などに、鎌倉時代の特色がみられます。自然と調和した建築であるこの石水院は、訪れる者に安堵感を与え、日本文化のひとつのあり方を示すものであります。

「金堂」は室町時代に焼失し、現存するものは江戸時代の1634年、仁和寺(にんなじ)から移築されたものと伝わります。釈迦如来像を本尊としています。

「開山堂」は明恵上人を偲んだ建造物で、やはり室町時代に焼失、江戸時代に再建されたものです。

このほか境内の奥寄りには宝キョウ印塔(ほうきょういんとう)や如法経塔(にょほうきょうとう)が並んでいます。

高山寺は、多くの絵画、工芸品、古文書を国宝、重要文化財として所蔵しておりますが、その中で『鳥獣人物戯画(ちょうじゅうぎが)(鳥獣戯画)』(国宝)は世界的に有名です。

清滝川をはさんで高山寺の対岸にあった茶園は、日本で始めて茶を栽培したと言われ、日本最古の庭園です。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
京都市

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

現地の案内板の英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3段落7文、172語からなる。段落の始めが3文字スペースを空けていることには賛成できる。「本文」の英語は、二重修飾構造などはなく、比較的読み易い。しかし、日本語説明と同様、「石水院」の説明が多く、他の有名な建造物や所蔵物について記されていないことが問題に思える。「本文」のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Kozan-ji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Kozan-ji Temple was established at the beginning of the 13th century, when the monk Myoe restored a temple originally built in 774 and renamed it Kozan-ji.¹ At the time of its restoration, the temple comprised a number of buildings, including a Kondo (Main Hall), an Amidado (Amida Buddha Hall), a thirteen-storied pagoda, and the Tozai Kyoza (Tozai Sutra Repository).² Kozan-ji Temple fell into decline during the military upheavals of the middle ages, but was restored in 1631, with the advent of the Edo period.³

The Sekisui-in is the only surviving structure that dates from Myoe's time.⁴ Architectural techniques such as *sugaru-hafu* gables, and various details of design, distinguish the architecture as Kamakura-period (1185-1332).⁵ Built in such a way as to harmonize with its natural surroundings, the Sekisui-in instills in the visitor a sense of relief and ease of mind, and provides a good example of an interesting aspect of Japanese culture.⁶

Other buildings to be found toward the inner part of the temple compound include the *Hokyo-in-to* and *nyohokyo-to* stone pagodas.⁷

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明に合わせ、英語説明の原文について加筆・修正を行う。

最初の「世界遺産登録」の記述について、これは福島（2017.1）、（2017.7）、（2018.1）で挙げた京都府のものと同様である。日本語学習者のために“ji”が“temple”であることを明示し、「高山寺」を“The *Kousan-ji* [-temple]”と表記し、文頭に置く。最後の“for the benefit of all of mankind”をより簡単に“for the benefit of people all over the world”とする。以下の通りとすることを提案する。

The *Kousan-ji* [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

2. 2. 2. 3. 2. 4の「天龍寺」、「醍醐寺」、「平等院」もこの修正案に準じる。当該観光地の名称、“**The Tenryuu-ji [-temple]**”、“**The Daigo-ji [-temple]**”、“**The Byoudou-in [-temple]**”を文頭にする。

本文について、加筆・修正した日本語の本文に合わせて、「高山寺の起源」→「過去の伽藍」→「現在の伽藍」→「石水院」→「金堂」→「開山堂」→「所蔵物（鳥獣人物戯画）」→「茶園」と段落を分け、記述することを提案する。

原文1について、「高山寺が13世紀初めに造られた」と、その起源についての「明恵上人が774年造られた寺を改修した」という記述を2文に分ける。「明恵上人」を“**a holy priest named Myoue**”とする。“**The Kousan-ji [-temple] was established at the beginning of the 13th century. A holy priest named Myoue restored a temple, originally built in 774, and renamed it “Kouzsan-ji.”**”とする。

原文2について、「金堂」、「阿弥陀堂」、「十三重塔」、「東西経蔵」を“**the Kon-dou (main hall)**”、“**the Amida-dou (Amida Buddha hall)**”、“**the Juusan-juu-no-tou (thirteen-storied pagoda)**”、“**the Touzai kyouzou (eastern and western sutra repositories)**”とする。

原文3について、「戦国時代」の英文字表記と内容説明を加え、「1633年、江戸時代の到来と共に」を平易にし、“**The Kousan-ji fell into decline during the Sengoku-jidai (the Warring States period) of the middle ages, but was restored in 1631, with the coming of the Edo-jidai [-period].**”とする。

原文4の「石水院」の説明の前に「現在境内には「石水院」、「金堂」、「開山堂」など有名な建造物が存在する。」“**In its precincts there are now famous buildings, including the Sekisui-in [-residence] (national treasure), the Kon-dou (main hall) (important cultural property), the Kaisan-dou (hall commemorating the founder) (important cultural property), and others.**”を加える。

原文4と、簡略化した原文5を同一段落とする。“**The Sekisui-in [-residence] is the only surviving structure that dates from Myoue’s time. It is a residential structure evoking the atmosphere of the Kamakura-jidai (1185-1332).**”とする。原文5の「庇を縫破風で処理する …」に相当する部分は、細かすぎる説明であるので、削除する。

原文6について、「石水院」の細かすぎる説明であるので、削除する。

原文7について、観光客の目を引くものではないと思われるので、削除する。

原文6、7の代わりに、「金堂」、「開山堂」、「高山寺の所蔵物」、「茶園」について段落分けして加筆する。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の加筆・修正案、「登録年月日」をまとめると、以下の通りである。「本文」を7段落261語に収めた。新たに「金堂」、「開山堂」、「所蔵物」などの情報を加えたため、福島(2017.9)で提案した語数、250語をやや超えてしまった。

尚、福島(2017.1)などのように、画像1を“**Sekisui-in [-residence]**”とし、画像2を“**Kon-dou (main hall)**”として、「本文」の前に添付することが印象的と思われる。福島(2017.9)でも記したが、象徴的な画像(実物の写真)を添付することが、説明の説得力をもたすためにも重要であると考えられる。

The Kousan-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

(UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

Sekisui -in [-residence]



Kon-dou (main hall)



The *Kousan-ji* was established at the beginning of the 13th century. A holy priest named Myoue restored the temple, originally built in 774, and renamed it “*Kousan-ji*.” At the time of its restoration, the temple comprised a number of buildings, including the *Kon-dou* (main hall), the *Amida-dou* (Amida Buddha hall), the *Juusanjuu-no-tou* (thirteen storied pagoda), and the *Touzai-kyouzou* (eastern and western sutra repositories). The *Kousan-ji* fell into decline during the *Sengoku-jidai* (the Warring States period) of the middle ages, but was restored in 1631, during the *Edo-jidai* [-period].

In its precincts there are famous buildings, including the *Sekisui-in* [-residence] (national treasure), the *Kon-dou* (main hall) (important cultural property), the *Kaisan-dou* (hall commemorating the founder) (important cultural property), and others.

The *Sekisui-in* is the only surviving structure that dates from Myoue’s time. It is a residential structure evoking the atmosphere of the *Kamakura-jidai* (1185-1332).

The *Kon-dou* was destroyed by fire in the *Muromachi-jidai*. The extant building is said to have been transferred from the *Nin’na-ji* in 1634, during the *Edo-jidai*. The image of the *Dainichi-nyorai* Buddha is enshrined as the main object of worship.

The *Kaisan-dou* is the building commemorating Myoue. It was also destroyed by fire in the *Muromachi-jidai*, and was rebuilt during the *Edo-jidai*.

The *Kousan-ji* possesses many paintings, craftworks and documents designated as national treasures and important cultural properties, including the world-famous *Chou-juu Jinbutsu Giga* (caricatures of beasts and human beings).

On the opposite side of the *Kiyotaki-gawa* [-river] from the *Kousan-ji* was a tea field. It is said to have been the oldest tea field in Japan.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

2. 2 天龍寺

4



5



天龍寺は、京都市の西北部、京都駅から山陰本線で約16分、「嵯峨嵐山駅」で下車する。特に桜、紅葉の季節の庭園の景観は定評がある。近くの「渡月橋（とげつきょう）」と共にして訪れる観光客が多い。国の史跡・特別名勝第一号である、入り口（画像4）の左、「大方丈」の裏には、夢窓疎石が作庭した、広大な「池泉回遊式庭園（ちせんかいゆうしきていえん）」がある。「曹源池庭園（そうげんちていえん）」と呼ばれる。（画像5）

6



画像6は「世界遺産登録」についての案内板である。「本文」の日本語説明は、以下の通りである。福島（2017.1）に準じ、「天龍寺」の文字サイズを大きくし、太字にすること、読み難い漢字の横に（振り仮名）を入れることを提案する。

「売り」である庭園の名称、「曹源池（そうげんち）」を入れ、「南北朝時代の高僧、夢窓疎石による。」を加える。

アンダーライン部を削除することを提案する。

「滝組竜門瀑（たきぐみりゅうもんぱく）…」という詳しい説明は削除し、「国の史跡・特別名勝第一号指定」を加える。

確かに、現在見られるものは最近復元されたものであるが、「法堂（はっとう）」の天井画である「雲龍図（うんりゅうず）」の歴史は古い。「雲龍図」について記してもよいのではと思う。

加筆・修正部分は赤字で記す。

天龍寺（てんりゅうじ）は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたことになります。

天龍寺は、嵐山を背景として建長7年（1255）に造営された離宮を、暦応2年（1339）に禅寺に

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

改めたものです。当初は山門（さんもん）、仏殿（ぶつでん）、法堂（はつどう）、方丈（ほうじょう）が一直線上に並ぶ典型的な禅宗寺院の伽藍が整えられ、さらに方丈の裏には夢窓礎石が携わって、自然の地形を大きな築山に見立てた庭園が造られました。その後、たびたびの兵火によって主要伽藍は失われましたが、庭園は現在も残されており、配置でした。度々の戦乱により主要伽藍は失われましたが、庭園は現存しています。

庭園は、曹源池（そうげんち）と呼ばれ、方丈の裏にあります。南北朝時代の高僧、夢窓疎石によるものです。園地の北汀（ほくてい）から東汀（とうてい）にかけては作庭後何回か手が増えられているものの、当時の趣を伝えています。滝組竜門瀑（たきぐみりゅうもんばく）、石橋、岩島と言った石組を立てたダイナミックでしかも繊細な趣の池庭で、方丈からの眺めを重視した構成や石組の手法は室町時代以降発展する枯山水庭園（かれさんすいていえん）や護岸石組に影響を与えています。曹源池は、国の史跡・特別名勝第一号に指定されました。

「法堂」には「雲龍図（うんりゅうず）」という天井画があります。旧作は損傷が激しく修復困難であったため、現在のものは1997年に現代の巨匠、加山又造によるものです。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録
京都市

現地の案内板の英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、2段落6文、194語からなる。段落の始めが3文字スペースを空けていることには賛成できる。しかし、原文4には、内容が大きく異なるにも拘わらず、「伽藍」と「庭園」が1文に収められるという、「長文化」が見られる。^{註3}「本文」のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Tenryu-ji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Originally built in 1255 as a detached palace with a view of Mt. Arashiyama, Tenryu-ji Temple was converted into a Zen temple in 1339.¹ With typical Zen temple layout comprising a Sanmon gate, Butsuden (Buddha Hall), Hatto (lecture Hall), and Hojo (abbot's quarters) arranged in a single straight line.² Tenryu-ji Temple features a garden, credited to the monk Muso Soseki, in which the natural contours of the landscape are made to represent mountains within the garden.³ The principal temple structures were burned down in repeated military conflagrations, but the garden has survived intact, and though additional work has several times been done on it from the northern bank around to the eastern bank of the pond, it nevertheless retains its original 14-th century ambience.⁴

This dynamic and sophisticated garden is built around a pond, with rock groupings forming *ryumon-baku waterfalls*, stone bridges, and rock islands.⁵ The way in which it is structured to emphasize the view from the abbot's quarters, and its methods of arranging rock groupings, exerted a significant influence on the pond-bank rock groupings and *karesansui* or "dry landscape" style rock gardens developed during and after the

Muromachi period (1333-1572) .6

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明に合わせ、英語説明の原文について加筆・修正を行う。

本文について、加筆・修正した日本語の本文に合わせて、「天龍寺の起源」→「伽藍」→「庭園」→「法堂の雲龍図」と段落を分け、記述することを提案する。

原文1について、分詞構文をやめ、形容詞型分詞構造にする。“**The Tenryuu-Ji, originally built ... with a view of Arashi-yama [-mountain], was converted....**”とし天龍寺全体の起源の説明なので、第一段落として独立させる。

原文2について、「当初」を「禅寺に変えられたとき」と、具体的に説明し、With構造を文に転換し、“**At the time of conversion it had the typical Zen Temple layout.**”とする。伽藍配置についての説明の後、原文4の「伽藍の焼失」をAlthough節内に含め、“**Although..., the garden has survived intact.**”までで、第二段落とする。

第三段落で「庭園」を説明する。原文にはない「曹源池」という庭園名称を入れ、「曹源池という庭園が方丈の奥にある。」“**The garden “Sougen-chi” is...the Houjou.**”で始める。原文3以後、「夢窓疎石による庭園」をはじめとする庭園説明は、この第3段落で記述する。「夢窓礎石」について“**a great priest in the period of the Nan-boku-chou-jidai....**”と説明する。

原文4について、「伽藍の歴史」の部分は第2段落とし、「夢窓疎石による庭園」については、原文3の同じ部分と共に第3段落で記述する。

原文5について、「滝組竜門瀑、石橋、岩島といった....」の詳しい「庭園の構造的説明」は「庭園（曹源池）の説明として、第3段落に入るところだが、削除する。

原文6について、「方丈からの眺めを重視した構成」と「室町時代以降の枯山水庭園や護岸石垣に影響を与えていること」は“**The garden is structured in such a way as to emphasize....**”、“**The method used in its rock-grouping arrangement...during and after the Muromachi-jidai....**”と文を分ける。石組が、枯山水などに直接関係するので、「方丈からの眺め」と文を分けても問題がないと思われる。「国の史跡・特別名勝第一号に指定」を新たに加える。

また、第4段落を設け、「法堂内の天井画、雲龍図」について、3文で記述する。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。表題、「世界遺産登録」の記述を除いて4段落265語に収めた。画像5を“**Sougen-chi Garden**”として、「本文」の前に添付することが説明に説得力をもたすためにも重要と思われる。

The Tenryuu-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

Sougen-chi Garden



cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The *Tenryuu-ji*, originally built in 1255 as a detached palace with a view of *Arashi-yama* [-mountain], was converted into a Zen temple in 1339.

At the time of the conversion it had the typical Zen temple layout. Such temple facilities as the *Sanmon* (main gate), the *Butsuden* (Buddha hall), the *Hattou* (Zen lecture hall), and the *Houjou* (head priest's living quarters) were methodically arranged in a single straight line. Although the principal structures

were burned down in repeated conflicts, the garden has survived intact.

The garden called "*Sougen-chi*" is at the back of the *Houjou*. It is a famous landscape garden around the world. It was credited to Musou Soseki, a great priest in the period of the *Nan-boku-chou-jidai* (period of Northern and Southern Dynasties) (1336-1392). Several times additional works have been done on the garden from the northern to the eastern bank of the pond, but this has not changed the 14th-century atmosphere. The garden is structured in such a way as to emphasize the view from the *Houjou*. The method used in its rock-grouping arrangement exerted a significant influence on the *Karesansui* (garden representing hills and streams without water) and the pond-bank rock groupings which developed during and after the *Muromachi-jidai* (1333-1572). The *Sougen-chi* was first designated as a "Special Historical Scenic Site of Japan."

There is a painting of a dragon on the ceiling of the *Hattou*. It is called the *Unryuu-zu* (painting of "Cloud and Dragon"). The present painting was completed by Kayama Matazou, a modern great artist, in 1997 because the old one was heavily damaged and impossible to restore.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

2. 3 醍醐寺

7



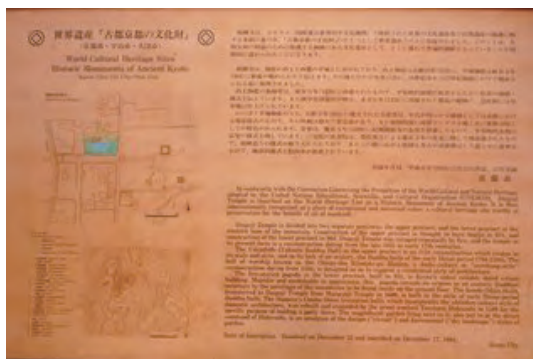
8



醍醐寺は、京都駅の北、京都駅からJR琵琶湖線・湖西線に5分乗り、「山科駅」下車。「地下鉄山科駅」から地下鉄東西線「醍醐駅」で下車する。

特に桜の季節の景観は定評がある。国宝の「五重塔」（画像7）、「薬師堂」、「金堂」、「唐門」（画像8）、重要文化財の「重要文化財の「仁王門」、「金剛力士像」などが建造物として有名である。また、寺宝として、国宝の『両界曼荼羅』、『絵因菓経』、『文殊曼荼羅図』を含む多くの文化財を所蔵する。画像8の国宝である「唐門」左隣りの、「受付」を抜けると、「三宝院（さんぼういん）」が存在する。この「山宝院」は、画像9の案内板内では、「平地伽藍」の一つとして説明されている。本稿もこれに従う。「三宝院」が「醍醐寺」の本坊の存在であり、「平地伽藍」である「下醍醐」にも、「山上伽藍」である「上醍醐」にも属さない、という考えもあるが。

9



画像9は「世界遺産登録」についての案内板である。

「本文」の日本語説明は、以下の通りである。福島（2017.1）に準じ、「醍醐寺」の文字サイズを大きくし、太字にすること、読み難い漢字の横に（振り仮名）を入れることを提案する。

アンダーライン部を削除することを提案する。

「三宝院」という建造物中の「表書院」とその庭園についての記述は段落を分ける。「三宝院」は、醍醐寺の中心的存在である。また、「山上伽藍」や「平地伽藍」とは異なる重要施設と

いう考えもあるからである。第二段落の「薬師堂」の説明中の「礼堂をもたない」は削除する。加筆・修正部分は赤字で記す。

醍醐寺（だいがじ）は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

醍醐寺は、伽藍（がらん）が山上と、山麓の平地とに分かれており、山上伽藍は貞観16年（874）に、平地伽藍は延喜4年（904）に完備が始められたと伝えます。その後たびたび火災にあい、16世紀末から17世紀初頭にかけて現在みられる姿に復興されました。

山上伽藍である薬師堂（やくしどう）は、保安5年（1124）に再建されたもので、平安時代初期の礼堂をもたない仏堂の規模・様式を伝えています。また鎮守社清瀧宮拜殿（きよたきぐうはいでん）は、永享6年（1434）に再建された懸造（かけづくり）の建物で、意匠的には住宅風に仕上げられています。

いっぽう平地伽藍である、天曆5年（951）に建立された五重塔は、年代が明らかな建物としては、京都における現存最古のもので、その外観は雄大で安定感があり、また初層内部に両界マンダラを描く点に密教寺院としての特色がみられます。金堂（こんどう）は、慶長5年（1600）に紀州満願寺の金堂を移築したもので、平安時代末期の仏道の様式を残しています。

三宝院（さんぼういん）の表書院（おもてしょいん）は、豊臣秀吉による慶長3年（1598）の花

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

見に際して増改築されたもので、寝殿造りの様式が取り入れられており、またこの横に広がる庭園も秀吉が直接指示して造らせた豪華なもので、池泉回遊式（ちせんかいゆうしき）と枯山水（かれさんすい）が折衷されています。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録
京都市

現地の案内板の英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3段落10文、268語からなる。段落の始めが3文字スペースを空けていることには賛成できる。原文5を除けば、文を内容別に独立させており読み易い。「本文」のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Daigoji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Daigoji Temple is divided into two separate precincts : the upper precinct, and the lower precinct at the western base of the mountain.**1** Construction of the upper precinct is thought to have begun in 874, and construction of the lower precinct in 904.**2** Daigoji Temple was ravaged repeatedly by fire, and the temple in its present form is a reconstruction dating from the late 16th to early 17th centuries.**3**

The Yakushido (Yakushi Buddha Hall) in the upper precinct is an 1124 reconstruction which evokes in its scale and style, and its lack of oratory, the Buddha halls of the early Heian period (794-1184).**4** The hall of worship known as the Chinju-sha Kiyotaki-gu Haiden, a *kake-zukuri* or “overhang-style” reconstruction dating from 1434, is designed so as to suggest a residential style of architecture.**5**

The five-storied pagoda in the lower precinct, built in 951, is Kyoto’s oldest reliably dated extant building.**6** Majestic and unshakable in appearance, this pagoda reveals its origins as an esoteric Buddhist structure by the paintings of the *mandalas* to be found inside on the ground floor.**7** The Kondo (Main Hall) , transferred to Daigoji Temple from Manganji Temple in 1600, is built in the style of early Heian-period Buddha halls.**8** The Sanpoin’s Omote Shoin (reception hall), which incorporates the *shinden-zukuri* style of domestic architecture, was rebuilt and expanded by the great warlord Toyotomi Hideyoshi in 1598 for the specific purpose of holding a party there.**9** The magnificent garden lying next to it, also put in at the direct command of Hideyoshi, is an amalgam of the *kaiyu* (“circuit”) and *karesansui* (“dry landscape”) styles of garden.**10**

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明に合わせ、英語説明の原文について加筆・修正を行う。

本文について、加筆・修正した日本語の本文に合わせて、「醍醐寺の起源」→「山上伽藍」→「平

地伽藍」→「三宝院（「表書院」、「庭園）」と段落を分け、記述することを提案する。

画像9の案内板では、日本語説明英語説明共に「醍醐寺」を「山上伽藍」と「平地伽藍」と、2つに分けている。本稿もそれに従う。

原文1について、日本語説明では、「山上伽藍」と「平地伽藍」と、「建造物（群）」に重点をおいている。従って、“**The Daigo-ji has two groupings of temple buildings, the grouping on the mountain and the one on flat land.**”とする。

原文2について、同様に、“**The construction of the former grouping...the latter in 904.**”とする。“construction”に定冠詞を加える。

原文3について、「伽藍が何度も火災に会い...復興した。」を“**They were repeatedly burned down...to their present appearance....**”と、「現在の姿に復興した」を明確に記す。

以下、原文4の「薬師堂」など、国宝に指定されている建造物が記されているが、それぞれ“**(national treasure)**”と説明する。原文で「山上伽藍」、「平地伽藍」に段落を分けている。本稿も原文に従う。

原文5について、「清瀧宮拝殿が1434年に復元された。」と「懸造（かけづくり）」については、文を分ける。

原文9以下は、「三宝院」に係する。“**Sambou-in [-residence]**”と表記する。段落を分ける。

原文9について、「秀吉により増改築された」と「神殿造りの様式」は、“**The Omote-shoin... Toyotomi Hideyoshi.**”、“**It was built...the Heian-jidai.**”と文を分けることを提案する。

原文10について、“**Its garden, on Hideyoshi's order, was built in the style....**”と単純化する一方、「池泉回遊式庭園」、「枯山水庭園」について、渡邊敏郎他編（2003）に準じ、“**(garden with a path around a central pond)**”、“**(garden representing hills and streams without water)**”と平易に説明する。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。表題、「世界遺産登録」の記述を除いて4段落272語に収めた。画像7、8を添付する。

The Daigo-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization

Gojuu-no-tou (five-storied pagoda)



Kara-mon (gate of the Sambou-in)



福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

(UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The *Daigo-ji* has two groupings of temple buildings, the grouping on the mountain and the one on flat land. The construction of the former grouping began in 874, and the latter in 904. They were repeatedly burned down, but they were restored to their present appearance from the end of the 16th century to the beginning of the 17th century.

Of the grouping on the mountain, the *Yakushi-dou* (Yakushi Buddha hall) (national treasure) was restored in 1124, and it was built in the style used at the beginning of the *Heian-jidai* [-period]. The *Kiyotaki-guu-haiden* (-hall of worship) (national treasure), the tutelary shrine, was restored in 1434. It is a residential building finished in the style called the *kake-dzu[du]kuri* (building on a steep slope).

Of the grouping on flat land, the *Gojuu-no-tou* (five-storied pagoda) (national treasure) built in 951 is the oldest of buildings in Kyoto, whose construction years are known. It has a characteristic feature of esoteric Buddhism where a *mandara* chart is painted on the wall of the first story. The *Kon-dou* (main hall) (national treasure) was transferred from the *Mangan-ji* in the Kishuu region (the present day Wakayama Prefecture and the south of Mie Prefecture). It evokes an atmosphere of the end of the *Heian-jidai*.

The *Omote-shoin* (main drawing rooms) (national treasure) of the *Sambou-in* [-residence] was enlarged and rebuilt during the reign of Toyotomi Hideyoshi. It was built in the palace style of the *Heian-jidai*. Its garden, on Hideyoshi's order, was built in the blended style of the *chisen-kaiyuu-shiki-teien* (garden with a path around a central pond) and the *kare-sansui* (garden representing hills and streams without water).

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

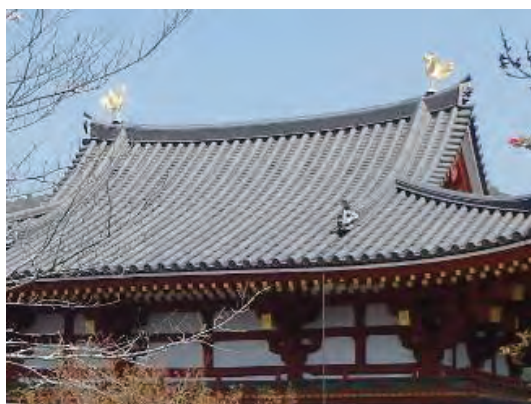
Kyoto City

2. 4 平等院

10



11



平等院は、京都市の南南東の宇治市に位置する。京都駅から JR 奈良線快速で 17 分、「宇治駅」で下車する。「宇治駅」の南、徒歩約 10 分にある。

画像 10 の国宝の「鳳凰堂」は、10 円硬貨の図案に使用されているほど有名な建造物である。画

12



像11で見えるが、鳳凰堂の中堂にある大屋根の両端には鳳凰が飾られている。「鳳凰堂」では、国宝である『九品来迎図』、『日想観図』が見られる。また、本尊の『阿弥陀如来坐像』も国宝に指定されている。

画像12は「世界遺産登録」についての案内板である。

「本文」の日本語説明は、以下の通りである。読み難いと思われる漢字の上に振り仮名が振られている。宇治市作成のものは、同じ書式の京都市市作成のものより、日本人観光客にも親切

と言える。福島(2017.1)に準じ、「平等院」の文字サイズを大きくし、太字にすること、さらに、読み難い漢字の上ではなく横に(振り仮名)を入れることを提案する。振り仮名がより読み易くなると思われる。

アンダーライン部を削除することを提案する。「... (中堂) 内部には絢爛な二重の ...」という説明は細かすぎると思われるので削除する。「阿弥陀如来像、扉絵や壁画の国宝指定」の記述を加える。加筆・修正部分は赤字で記す。

平等院(びょうどういん)は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

宇治の地は、宇治川を望む景勝地として平安時代には数多くの貴族の別荘がおかれるようになりました。平等院は、もと藤原道長(みちなが)の別業だったものを、その子関白頼道(よりみち)が永承元年(1052)に寺院に改めたものです。翌天喜元年(1053)に定朝作、阿弥陀如来(あみだ)によらいを安置した阿弥陀堂、すなわち現在の鳳凰堂(ほうおうどう)が建てられ、さらに12世紀はじめまでには、法華堂(ほっけどう)・五大堂(ごだいどう)などの諸伽藍(がらん)が造営されました。その後建武3年(1336)の戦火により大半の伽藍が消失しましたが、現在は鳳凰堂と鎌倉時代再建の観音堂(かんのんどう)、鐘楼(しょうろう)などが残っています。

鳳凰堂は、中堂を中心にその左右に翼廊(よくろう)がひろがり軽快で優美な姿をみせ、背面には尾廊(びろう)がのびています。中堂の大屋根の両端には鳳凰が飾られています。内部には絢爛(けんらん)な二重の天蓋(てんがい)、宝相華(ほうそうげ)文様や螺鈿(らでん)装飾、さらに雲中供養菩薩(うんちゅうくようぼさつ)、壁扉画などで荘嚴(しょうごん)されています。阿弥陀堂内の阿弥陀如来像、扉絵や壁画は国宝に指定されています。

鳳凰堂の前面には池を配した庭園が広がっていますが、これらは西方極楽浄土を具現(ぐげん)したものです。

創建当初には池岸の洲浜(すはま)が宇治川まで続き、対岸の山並みが迫っていました。自然の景観を取り入れた平等院独特の庭園は、日本固有の庭園形式で、浄土庭園と呼ばれ、その後の阿弥陀堂を中心とした寺院庭園の原型となり、奥州平泉の毛越寺(もうつうじ)や無量光院(むりょう

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

こういん)、京都の鳥羽勝光明院 (とばしょうみょうこういん) など各地へ波及しました。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
宇治市

現地の案内板の英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3段落12文、349語からなる。語数が多すぎる。段落の始めが3文字スペースを空けていることには賛成できる。セミコロンによる長文化が目立つ。「本文」のアンダーライン、文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Byodoin Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

The Uji area was popular among the nobility of the Heian period for the scenic views it offered of the Uji River, and many country villas were built there.**1** The Byodoin Temple was originally one such rural retreat, owned by Fujiwara no Michinaga : it was converted into a temple in 1052 by his son, the Kanpaku (Imperial Regent) Fujiwara no Yorimichi.**2** The following year, in 1053, the Amidado (Amida Buddha Hall) was built, and a statue of Amida Buddha by the sculptor Jocho enshrined therein : this is the building widely known today as the Ho-o-do (Phoenix Hall) .**3** By the beginning of the 12th century, the Hokkedo, Godaido, and other buildings had been added.**4** Most of these were destroyed when the temple complex was put to the torch in 1336 : however, the original Phoenix Hall, a Kamakura-period reconstruction of the Kannondo (Kannon Hall) , and the belfry have survived to the present day.**5**

The Phoenix Hall is an airy, delicate, and graceful structure comprising a central hall flanked by two wings to the left and right, with another hall forming a tail behind.**6** The main roof of the central hall is ornamented at either end by a bronze figure of the phoenix-like mythological bird known as a *ho-o.***7** The interior is magnificently adorned, with an ornate double ciborium, *hosoge* designs, carved bodhisattvas, and murals.**8** In front of the Phoenix Hall lies a garden with a pond, intended to represent the Western Paradise Pure Land.**9**

At the time of the Byodoin Temple's construction, the "beach" of gravel around the pond extended to the bank of the Uji River, making the mountains on the far side of the river appear much closer.**10** This uniquely Japanese form of garden, in which the garden incorporates the surrounding natural scenery, is known as the "Pure Land garden. " **11**The Byodoin garden served as the prototype for the temple garden built around a central Amida Buddha hall, and its influence extended to many different gardens, such as those of the Motsuji and Muryokoin Temples in Oshu Hiraizumi and the Toba Shokomyoin Temple in Kyoto.**12**

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Uji City

日本語説明に合わせ、英語説明の原文について加筆・修正を行う。

本文について、加筆・修正した日本語の本文に合わせて、「平等院が宇治にある理由」→「平等院の歴史」→「阿弥陀堂（鳳凰堂）」→「庭園」と段落を分け、記述することを提案する。

原文1について、“*The Byoudou-in*”を主語、文頭にするように書き換える。「宇治川を望む景勝地であったので」を、接続詞を用い“*because the area offered scenic views...*”と、「理由」を明示する。この文を第一段落とする。

原文2から、第二段落とする。

原文2について、セミコロンで接続するのをやめ、文を分ける。セミコロンのあとの文は“*In 1052 it was converted into...*”とする。職位「関白」は削除する。

原文3について、セミコロンの前の“*enshrined*”は“*was enshrined*”とする。それに続く、「この建造物は今日鳳凰堂として広く知られている。」は、本稿が第三段落「阿弥陀堂（鳳凰堂）」とする段落の書き出しで記す。

原文4について、“*The other buildings, such as the Hokke-dou and the Godai-dou, had been built by the beginning of...*”とする。

原文5について、セミコロンの前の「1336年に大半の伽藍が焼失した。」は、“*, but most of these buildings were burned down in 1336.*”とし、前文の中に加える。

原文6に相当する箇所から「阿弥陀堂（鳳凰堂）」の説明箇所は、第三段落とする。

原文6について、「鳳凰堂として広く知られる阿弥陀堂が平等院の特徴的な建造物である。」と、「構造的説明」を2文に分け、“*The Amida-dou, widely known as the Houou-dou...*”、“*It comprises a central hall flanked with...*”とする。

原文7について、“*by a bronze figure of the phoenix known as a houou.*”と、“*mythological*”を削除し、平易に記す。

原文8について、構造説明が細かすぎるので削除する。代わりに「内部の阿弥陀如来像と扉絵や壁画が国宝に指定されている」を加える。

原文9について、「庭園」説明であり、以下、第四段落とする。

原文10について、この文は削除する。原文11に相当する、「自然の景観を取り入れた」、“*The characteristic form of the Byoudou-in’s Japanese garden which incorporates the surrounding scenery...*”で、平等院の庭園の特殊性は十分説明されている、と思われるからである。

原文12について、“*and...*”、「平等院庭園が影響を与えた庭園」については文を分ける。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。表題、「世界遺産登録」の記述を除いて4段落257語に収めた。画像10を添付する。

The *Byoudou-in* [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The *Byoudou-in* is located in the Uji area, which was popular among the nobility of the *Heian-jidai* [-period] because the area offered scenic views of *Uji-gawa* [-river].

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

Houou-dou (“phoenix” hall)



The *Byoudou-in* was originally one such rural retreat, owned by Fujiwara-no Michinaga. In 1052 it was converted into a temple by his son, Fujiwara-no Yorimichi. In 1053 the *Amida-dou* (Amida Buddha hall) was built. There a statue of Amida Buddha by Jouchou, a sculptor, was enshrined as the main object of worship. The other buildings, such as the *Hokke-dou* and the *Godai-dou*, had been built by the beginning of the 12th century, but most of these buildings were burned down in 1336. The *Amida-dou*, the *Kan’non-dou* and the belfry have survived to the present day.

The *Amida-dou*, widely known as the *Houou-dou* (“phoenix” hall), is the characteristic building of the *Byoudou-in*. It comprises a central hall flanked with two wings to the left and right, with another hall forming a tail behind. The main roof of the central hall is ornamented at either end with a bronze figure of the phoenix known as a *houou*. The statue of Amida Buddha and many panel paintings on the doors and walls inside are designated as national treasures.

The characteristic form of the *Byoudou-in*’s Japanese garden which incorporates the surrounding scenery is known as the *Joudo-teien* (“Pure Land” garden). It served as the prototype of temple gardens. Its influence was extended to many gardens, such as the *Moutsuuji*’s garden in Hiraizumi, Iwate Prefecture, and the *Toba Shoukoumyou-in*’s garden in Kyoto.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Uji City

2. 5 三角西港（みすみにしこう）

13



14



三角西港は、熊本市の南南西部、「熊本駅前」から九州産交バスで約70分、「三角西港前」で下車する。画像13の「石積埠頭」、画像14の「石積の水路」が重要文化財に指定されている。

15



「三角西港」の「明治日本の産業革命遺産」登録の案内板（画像 15）は、日本語説明文中の「三角西港」「構成資産 三角西港 Misumi West Port」としている以外は、福島（2018.7）で挙げた「松下村塾」、「萩反射炉」と共通している。アンダーラインは本稿執筆者による。

日本語説明と英語説明は以下の通りである。

世界遺産
明治日本の
産業革命遺産
製鉄・製鋼、造船、石炭産業

三角西港は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。

19世紀の半ば、西洋に門戸を閉ざしていた東洋の一国は、海防の危機感より西洋科学に挑戦をし、工業を興すことを国家の大きな目標として、西洋の産業革命の波を受容し、工業立国の土台を築いた。明治日本の産業革命遺産は、1850年代から1910年の日本の重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における大きな変化、国家の質を変えた半世紀の産業化を証言している。

「三角西港は」で始めている以外は、福島（2018.1）で挙げたものと外観、文章などまったく同一である。

福島（2018.7）と同様、段落の始めは一文字スペースを空けること、文語調過ぎるので、アンダーライン部を以下のようにすることを提案する。

「一国である日本」、「危機感をもち」、「工業化する」、「大きな変化をもたらし」、「示している」とする。

一方、英語説明は、以下の通りである。

World Heritage
Sites of
Japan's Meiji
Industrial
Revolution
Iron and Steel, Shipbuilding
And Coal Mining

One of a series of properties that form a World Heritage Site that reflects the rapid industrialization from the 1850s to 1910, founded primarily on iron and steel, shipbuilding and coal mining. This successful

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

industrialization was achieved in just a little over 50 years without colonization, and on Japan's own terms.

構成資産

三角西港

Misumi West Port

英語説明について、「三角西港」“the *Misumi-nishikou*”を第二段落で主語とし、以下の如くすることを提案する。兩段落共に書き出しは3文字分スペースを空ける。

表題は、“*Misumi-nishikou (-west port)*”とすることを提案する。「植民地化されてしまうことなく」を“*without having been colonized*”と明示する。

From the 1850s to 1910 Japan succeeded in the rapid industrialization primarily in the spheres of iron and steel, shipbuilding and coal mining. The industrialization was achieved without having been colonized by other countries and on Japan's own terms.

The *Misumi-nishikou (-west port)* is one of a series of properties that form a World Heritage Site which helped this rapid industrialization. .

16



17



画像16、画像17を含め複数の案内板が海岸線の狭い範囲に見られる。16の「昔の三角西港 Former Misumi West Port」が、本稿執筆者が「総合案内板」と呼ぶものに近い。但し、この案内板は「歴史」のみの記述であり、「現状」等は、隣に設置されている、17の「三角西港施設案内図」などに見られる。16、17などの内容を取り入れ、「三角西港」という表題の「総合案内板」を提案したい。

画像16の日本語説明と英語説明は以下の通りである。韓国語、中国語の説明も併記されている。日本語説明では段落の始めは1文字分、英語説明では3文字分、空けるべきであろう。

日本語説明は以下の通りである。読み難い漢字には（振り仮名）を入れることを提案する。

「昔の三角西港 Former Misumi West Port」

三角西港は、野蒜（のびる）築港（『宮城県』、三国（みくに）港（福井県）とともに明治政府の殖産興業の政策に基づいて建設された近代港湾都市である。オランダ人水理工師ムルドルの設計、日本人による伝統的の石工技術により施工され、明治17（1884）に着工、明治20（1887）年6月15日に開港した。有明海に臨みながら良港をもたない熊本にとって、貿易港の完成は江戸時代からの彼

岸ともいうべきで、築港にかけた期待と完成の喜びは数々の逸話に伝えられている。明治22(1889)年には特別輸出港に指定され、米、麦、麦粉、石炭、硫黄などが輸出された。特に石炭は、三池炭鉱の石炭を中国の上海へ輸出し、日本の近代化に貢献した港として、平成27(2015)年7月世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして、登録されました。

英語説明は以下の通りである。

Misumi West Port is one of three major port constructions in Japan : other two are Nobiru Port Construction (in Miyagi Prefecture) and Mikuni Port (in Fukui Prefecture) . This is a modern port town constructed based on the policy of encouraging new industry by the Meiji Government. Designed by Mulder, a Dutch hydraulic engineer, it was constructed using the traditional Japanese masonry technique. Its construction started in 1884 and the port opened on August 15, 1887. Although Kumamoto faces the sea, there were no good ports.

Therefore, the completion of a trading port had been a long-cherished wish since the Edo Period. Anticipation of the port's construction and the joy following its completion have produced various anecdotes. After the opening, it flourished as the main trading port of Kyushu and was designated a 'special exporting port' in 1889, and rice, wheat, coal sulfur and so on were exported. Especially the exporting of coal from the Miike coal mine to Shanghai contributed to industrialization of Japan. It was registered as a component of "sites of Japan's Meiji Industrial Revolution iron and steel, shipbuilding and coal mining".

以上の「昔の三角西港 Former Misumi West Port」など、複数の案内板の内容を簡略化し、「三角西港 (みすみにしこう)」**“Misumi-nishikou(-west port)”** という表題の総合案内板を提案する。

日本語説明は以下の通りである。

三角西港 (みすみにしこう)

三角西港は、宮城県の野蒜港 (のびるこう) や福井県の三国港 (みくにこう) と共に歴史的に重要な港湾都市です。明治政府の殖産興業政策に従って建設されました。

三角西港は、オランダ人の水理工師ムルドルによって設計されましたが、日本の伝統的な石工技術を用いて完成されました。建設は1884年に始まり、1887年8月16日に開港しました。その後三角西港は九州の貿易港となり、1889年に「特別輸出港」に指定されました。米、小麦、石炭、硫黄などがここから輸出されました。三角西港は日本の産業化に貢献しました。

大正時代に入ると、手狭であるという理由で、三角東港 (みすみひがしこう) に取って代わられました。しかし、それがかえって三角西港を昔の面影のまま残す結果になりました。

三角西港は、開港当初、北東部には司法・行政地区、海岸線には倉庫群を含む商業地区、北西部には遊興地区が整備されました。当時の様子を物語る建造物は、旧三角簡易裁判所 (きゅうみすみかんいさいばんしょ)、旧三角郡役所 (きゅうみすみぐんやくしょ)、旧三角海運倉庫 (きゅうみすみかうんそうこ)、龍驤館 (りゅうじょうかん) です。それぞれが「国登録有形文化座」に指定されています。浦島屋 (うらしまや) は、ラフカディオハーンの紀行文「夏の日の夢」の舞台となっ

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

た旅館です。

三角西港の最も代表的な建造物は、756m に及ぶ「石積埠頭 (いしづみふとう)」と 4 本の「石積の水路 (いしづみのすいろ)」です。それぞれ「国指定重要文化財」です。

日本語説明に合わせ、英語説明を提案する。

英語説明も、「三角西港の意義、(明治時代) 開港理由」→「(明治時代) 開講功労者」→「大正時代 (衰退)」→「開港時の地区区分、現在の建造物」→「重要文化財 (埠頭、水路)」と段落分けし、記述する。語数は、5 段落 302 語になってしまった。

18



19



観光地が広く、「売り」と言える建造物が多いためである。世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」登録について、画像 15 の案内板が存在するので、削除してもよいかもしれない。画像 18 の「旧三角簡易裁判所 (きゅうみすみかんいさいばんしょ)」、旧宇土郡役所 (きゅうとうとぐんやくしょ)、画像 19 の「旧三角海運倉庫 (きゅうみすみかいうんそうこ)」の英文字表記も加えたかったが、語数を抑えるために避けた。

画像 13、14 を “*Ishidzu[du]mi Futou*”、“*Ishidzu[du]mi no Suiro*” として、添付する。

Misumi-nishikou (-west port)

The *Misumi-nishikou* is one of the historically important port towns in Japan, together with the *Nobiru-kou* [-port] in Miyagi Prefecture, and the *Mikuni-kou* in Fukui Prefecture. It was a “modern” port town constructed in conformity with the Meiji Government’s policy of promoting national industry.

The *Misumi-nishikou* was designed by Mulder, a Dutch hydraulic engineer, but was constructed using traditional Japanese masonry techniques. Its construction started in 1884 and the port opened on August 15, 1887. After that the *Misumi-nishikou* flourished as the main trading port in Kyushu. In 1889 it was designated as a ‘special exporting port’, and rice, wheat, coal, sulfur and other goods were exported from here. The *Misumi-nishikou* contributed to the industrialization of Japan. In 2015, it was registered as one of “sites of Japan’s Meiji Industrial Revolution iron and steel, shipbuilding and coal mining”.

When the *Taisho-jidai* [-period] began, the *Misumi-nishikou* was replaced by the *Misumi-higashikou*

(-east port) because it was small. However, that is the very reason why the *Misumi-nishikou* has not changed its original townscape.

When the *Misumi-nishikou* opened, it was arranged with the area of the executive and the judicature in the northeast, the area of commerce including groupings of warehouses along the seacoast, and the area of amusement in the northwest. The structures, evoking the original atmosphere, are the Old Misumi Summary Court, the Old Misumi County Office, the Old Misumi Marine Transportation Warehouse, the *Ryuujou-kan* (Meiji Emperor Eulogy Memorial Hall). They are now nationally registered as Tangible Cultural Properties. The *Urashima-ya* is a Japanese-style inn which Rafcadio Hearn mentioned in his tale of travel entitled “The Dream of a Summer Day.”

The most representative structures of the *Misumi-nishikou* are the 756m long *Ishidzu[du]mi Futou* (masonry quay), and the four *Ishidzu[du]mi no Suiro* (masonry channels). They are designated as National Important Cultural Properties.

Ishidzu[du]mi Futou



Ishidzu[du]mi no Suiro



3. おわりに

以上、「世界遺産「古都京都の文化財」」である「高山寺」、「天龍寺」、「醍醐寺」、「平等院」の「総合案内板」に相当する「本文」の加筆・修正案を提示した。それぞれ、日本語説明について検討を加えた後、英語説明について考察した。特定部分の説明が多すぎると思える場合、削除することを提案した。そして、「世界遺産「明治日本の産業革命遺産」」である「三角西港」の、2018年7月現在存在しない「三角西港」という表題の「総合案内板」の提案を行った。

すべて、福島(2017.9)で提案した語数250語を越えてしまった。高山寺については、261語となった。原文は172語であり、やや「説明不足」と感じられた。「石水院」の細かい説明を削除する一方、原文にない「金堂」、「開山堂」、「所蔵物(鳥獣人物戯画)」、「茶園」について、そして、「国宝指定」、「重要文化財指定」の記述を加えたことによる。

天龍寺については、265語となった。原文は194語であった。「庭園」の細かい説明を削除する一方、「国の史跡・特別名勝第一号指定」の記述を加えた。また、「法堂」中の「雲龍図」の記述を加えたことによる。

醍醐寺については、268語となった。原文は267語であった。原文に無い「池泉回遊式庭園」、「枯

福島 一人：観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

山水」の説明を加え、「国宝指定」、「重要文化財指定」の記述を加えたことによる。

平等院については、257 語である。原文は 339 語であった。「阿弥陀堂 (鳳凰堂)」の細かい説明などを削除した。原文に無い「国宝指定」の記述を加えた。

三角西港については、302 語となった。広い面積の中に、多くの有名な建造物がある。重要文化財の「石積埠頭」、「石積の水路」、そして、有形文化財の「旧三角簡易裁判所」、「旧三角海運倉庫」など、また、ラフカディオハーンに縁がある「浦島屋」を説明したことによる。

建造物などの細かい説明を削除したものがある。これらは独立した案内板を設置すべきであろう。しかし、代わりに他の重要な建造物などの記述を加えた。三角西港のように観光地の面積が広く、「売り」となる建造物などが多い場合、個々の詳細は独立した案内板を設置するにしても、少し触れざるを得ない。その結果 250 語を越えることが当然あり得ることが分かった。

記述順について、歴史的建造物などでは、「重要順」は「時間順」と概ね共通し、日本語説明と、英語説明の記述順は、ほぼ一致していると言えよう。最後の「三角西港」についても、これに従った記述順とした。

福島 (2017.1) に準じ、日本語説明の「本文」の書き始めは、「高山寺」など、当該観光地の文字サイズを大きくし、太字にすること、読み難い漢字には (振り仮名) を入れることを提案した。

福島 (2017.9) でも記したが、代表的な画像 (実物の写真) を添付することが、説明に説得力をもたすためにも重要であると考えた。

本稿執筆にあたり、これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことや目立つことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどとは、異なり、語数に制約がある。また、現在でも、地方では外国語案内板の数は少ないようである。讀賣新聞 (2016.11.1) でも、訪日観光客が増加しているが、地方では外国語案内板の数が少ない旨、述べている。
- 2) (こうざんじ) と (こうさんじ) と、読まれるが、リーフレットの電話番号に電話した時にも、「こうさんじ」と言われた。(こうさんじ) “*Kousan-ji*” とする。
- 3) 福島 (2017.9) p.3 参照。

参考文献

- ブリタニカ・ジャパン編 (2013) 『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京：ブリタニカ・ジャパン
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人 (2011.1) 「観光英語 (1)：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第 44 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

- (2011.7)「観光英語 (2): 国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2012.7)「観光英語 (3): 重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2013.1)「観光英語 (4): 重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2014.1)「観光英語 (5): 重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2014.7)「観光英語 (6): 世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2015.1)「観光英語 (7): 日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2015.7)「観光英語 (8): 神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2015.9)「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第21号、東京: 日本実用英語学会
 - (2016.1)「観光英語 (9): 神奈川県観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第54号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2016.7)「観光英語 (10): 神奈川県と静岡県の観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第55号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2017.1)「観光英語 (11): 京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第56号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2017.7)「観光英語 (12): 京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語」『情報研究』第57号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2017.9)「国内観光地の総合案内板の英語についての問題点: 文法、記述順を中心に」『日本実用英語学会論叢』第23号、東京: 日本実用英語学会
 - (2018.1)「観光英語 (13): 観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘に見られる案内板の英語」『情報研究』第58号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
 - (2018.7)「観光英語 (14): 島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語」『情報研究』第59号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- 市川繁治郎他編 (福島一人他執筆) (1995)『新編英和活用大辞典』、東京: 研究社
- 石井隆之 (2009)『日本の都道府県の知識と英語を身につける』、東京: ベレ書房
- 京都府ホームページ「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」(オンライン)、入手先 (<http://www.pref.kyoto.jp/isan/>) (2016.07.05 参照)
- 国土交通省 観光庁 (2014.3)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(オンライン)、入手先 (<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>) (2016.03.03 参照)
- 九州観光情報サイト「九州旅ネット」、「九州の世界遺産」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(オンライン)、入手先 (https://www.welcomekyushu.jp/world_heritage/spots/christian) (2018.6.1 参照)
- 文部科学省 「ローマ字のつづり方」(オンライン)、入手先 (http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/)

福島 一人：観光英語（15）：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語

k19541209001/k19541209001.html）（2014.10.15 参照）

NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」（オンライン）、入手先（<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>）（2014.10.15 参照）

新村出編（2008）『広辞苑』第6版、東京：岩波書店

るるぶ情報版（2012）『京都を歩こう '13』東京：JTB パブリッシング

スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編（1999）『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館

柴田正昭（2010）『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂

篠田義明（1989）『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社

———（2014）『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』東京：南雲堂

竹林 滋他編（2002）『研究社 新英和大辞典』第6版、東京：研究社

渡邊敏郎他編（2003）『研究社 新和英大辞典』第5版、東京：研究社

Wikipedia, the free encyclopedia "Daigo-ji" Retrieved October 9, 2018.